

▶14日 水曜

出エジプト



4:24 さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。主はモーセに会われ、彼を殺そうとされた。

4:25 そのとき、チッポラは火打石を取って、自分の息子の包皮を切り、それをモーセの両足につけ、そして言った。「まことにあなたは私にとって血の花婿です。」

4:26 そこで、主はモーセを放された。彼女はそのとき割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのである。

4:27 それから、主はアロンに仰せられた。「荒野に行って、モーセに会え。」彼は行って、神の山でモーセに会い、口づけした。

4:28 モーセは自分を遣わすときに主が語られたことばのすべてと、命じられたしるしのすべてを、アロンに告げた。

4:29 それからモーセとアロンは行って、イスラエル人の長老たちをみな集めた。

4:30 アロンは、主がモーセに告げられたことばをみな告げ、民の目の前でしるしを行なったので、

4:31 民は信じた。彼らは、主がイスラエル人を顧み、その苦しみをご覧になったことを聞いて、ひざまずいて礼拝した。

「彼を殺そうとされた」というのは、モーセが重病にかかったのだと思われます。なかなか癒されずに、神様は彼をそのまま見捨てるのかと思われたのでしょう。そこで、彼の妻であるチッポラは、息子に割礼（神の民のしるしとして男子が受けるもの）をしていないことに気づきました。

つまり神のものだという明確なしるしがあったのです。私たちも人生を歩むにあたって、また歩みは神様の使命と一体ですから、その使命を果たすにあたって、自分が神のものであるということは明確

にしなくてはなりません。

「民は信じた。」とあります。以前は口が重く、人を説得することなど無理と思っていたモーセですが、神様の權威と彼の確信、そして神様のみわざがあるとき、神の共同体は一体できるのです。自分のことばの巧みさや実力よりも、主のみわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

